

Press Release

市民美術大学 特別講座 「美術界の話をしよう」

2018年6月16日(土) 午後2時～4時

会場／西日本工業大学 小倉キャンパス 大講義室 (北九州市小倉北区室町1-2-11)

参加費／1000円 要申込 申込締切 6月11日(月)

現代美術センターCCA北九州では、地域の皆様を対象とした「市民美術大学 美術講座」を平成20年度から平成28年度までの9年間に渡り開催し、この間に行われた計73回の講座では、数多くのアーティストや美術・文化関係者により、国内外の美術の世界で起きていることなどが紹介されました。

一方、市制55周年を迎える北九州市では、「2020年東アジア文化都市」の誘致をはじめとする様々な施策を通じ、欧米を中心に展開されてきた文化芸術の力をまちづくりやにぎわいづくりに活かす都市の成長モデルである「創造都市」実現に向けた取組みを加速させることとしています。

そのような中、CCA北九州では、国内の第一線で活躍する複数の美術関係者を講師に招き、多様な視点から今日の文化行政やアートに関連する活動の可能性について対話形式で進められる市民美術大学特別講座「美術界の話をしよう」を開催することとしました。

今回登壇する秋元雄史氏、伊東正伸氏、水沢勉氏、建畠哲氏は、これまで一貫して現代アートの分野において我が国で大きな影響力を持つ美術館や文化機関・大学等に在籍され、その間、グローバルな視点のもと数々の国際美術展やアートプロジェクトなどに携わってこられました。また、過去に「東アジア文化都市」として選定された横浜、京都、金沢などにおいて取り組まれた様々な文化プログラムに関しても中核的な役割を果たされてきました。

本特別講座では、それぞれのフィールドで日本の美術界を牽引してきた4氏と、CCA北九州ディレクター中村信夫が、現代アートとそれを取り巻く世界から北九州市がとるべき文化戦略までの広範なテーマについて、自由に意見を交わし考察していきます。

お問い合わせ・お申込

現代美術センターCCA北九州

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-5 学術研究都市

TEL 093 695 3691 Eメール mail@cca-kitakyushu.org



市民美術大学 特別講座「美術界の話をしよう」 講師略歴

秋元 雄史（東京藝術大学大学美術館館長/練馬区立美術館館長）

1955年生まれ。ベネッセコーポレーションに勤務する傍ら、美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島の企画、運営に携わった。地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストック・ディレクターなどを務めた後、2007年金沢21世紀美術館館長に就任し、以後10年近くに渡り数多くの現代美術の展覧会やプログラムを展開する。15年から現職。現在、金沢21世紀美術館特任館長と兼務。

伊東 正伸（国際交流基金ジャポニスム事務局 部長/審議役）

1961年生まれ。毎日新聞社（事業部、英文毎日局編集部記者）を経て、1991年より国際交流基金に勤務。「テイストと探究—1990年代の日本美術」展、「写楽再見」展ほか、多数の展覧会を企画担当。ヴェネチア・ビエンナーレの日本参加にも携わった。2001年に第1回目が行われた横浜トリエンナーレの立ち上げに参画、第3回展（2008年）では事務局長を務めた。共著に「アートマネージメントを学ぶ」（2018年武蔵野美術大学出版局）等。

水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）

1952年生まれ。神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務、11年から現職。ドイツ語圏および日本の近代美術に関心を抱き、その交流史についても論じる。美術館にて多数の展覧会を企画する他、バンガラデシュ アジア・アート・ビエンナーレ（1993/1997）、サンパウロ・ビエンナーレ（2004）の日本コミッショナー、横浜トリエンナーレ（2008）の総合ディレクターを務めるなど、国際展も多く手がけている。

建畠 哲（多摩美術大学学長/埼玉県立近代美術館館長）

1947年生まれ。国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館館長、京都市立芸術大学学長などを務め、近現代美術の展覧会を多数企画する。現在は埼玉県立近代美術館館長、多摩美術大学学長。またヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー（1990/1993）、横浜トリエンナーレ・アーティストック・ディレクター（2001）、あいちトリエンナーレ芸術監督など、多くの国際美術展多くに携わる。昨年開館した草間彌生美術館館長に就任。

中村 信夫（現代美術センターCCA北九州 ディレクター）

1950年生まれ。80年代よりダニエル・ビュレンやマリナ・アブラモヴィッチなど、国際的に活動していたアーティストたちと共に多数のプロジェクトや展覧会を企画すると同時に、当時相次いで開館された日本の美術館設立、運営にも携わる。1986年、ロンドン留学期の経験や欧米のアートシーンが語られた「少年アート」を出版、国内のアーティストに大きな影響を与えた。1997年にCCA北九州を設立、以後ディレクターを務める。第1回横浜トリエンナーレ（2001）アーティストック・ディレクター。